

## 第29回美しい農村環境写真コンテスト作品評

特別審査員：種清 豊氏（日本写真家協会）

（撮影者：敬称略）

### ★ 千葉県知事賞

#### 「今年も豊作」



（撮影場所：香取郡東庄町 撮影者：石毛 忠男）

広角レンズによるパースを生かし、手前の稲穂を主役に配置しやや斜めに見せることで、近景から遠景へと続く画面の流れをうまく伝えています。また、人物の配置がよく、シャッタータイミングも適切で、何気ない日常の農村風景を端的にとらえている優秀なスナップ作品と言えるでしょう。

### ★ 千葉県土地改良事業団体連合会長賞

#### 「5月の水田」



（撮影場所：銚子市芦崎町 撮影者：名雪 和美）

上下シメトリックの二分割の構図が緊張感を伝えてくれる一枚です。まっすぐに植えられた苗の配列もいいアクセントになってくれています。そして、水田に張られた水の分量を意識し撮影時期を選定することで、青空に浮かぶ白雲がうまくリフレクションとなってくれました。緑と白のコントラストがすがすがしい作品です。

## ★ 特別賞

### 【千葉県農村振興技術連盟賞】

#### 「風薫る頃」



撮影場所：香取市沢

撮影者：宮野 昌起

縦位置のフレーミングを効果的に生かしていますね。水田から見たら高い撮影位置ですが、その高さも味方につけ、適切なカメラアングルとカメラポジションを導いて撮影できています。シンプルな情景に小さなアクセントを加える、フォトジェニックな光景を捉えた夏の景色にふさわしい一枚です。

### 【千葉県多面的機能推進協議会賞】

#### 「春が来た」



撮影場所：鴨川市大山千枚田

撮影者：高橋 百合子

有名な撮影地だけに、たくさん写真に収められている人気の千枚田（棚田）ですね。撮影位置は定番ながら、快晴とは真逆の曇天もまた面白い。水田へきらめく日の光や、夕景などのグラデーションを絡めた作品はよく見ますが、初めて目にした目の前の光景をスマートフォンで素直に撮影した当時の作者の気持ちが伝わってきますね。

### 【ちば水土里支援パートナー賞】

#### 「収穫」



撮影場所：香取市油田

撮影者：渡邊 良一

サツマイモの収穫風景ですが、被写体にあわせてカメラ位置を少し下げたシャッターを切っている点が良いですね。主役の大きさや手前のサツマイモのサイズ感、また掘り上げている瞬間を狙ったであろう確かなシャッタータイミングなど、いろいろな要素がこの一枚をうまくまとめてくれています。

## ★ 金賞

「円筒分水」



撮影場所：東金市

撮影者：宇佐美 伸之介

コンテストの趣旨に沿う作品も昨年に比べ増えてきた印象です。詳しい方に聞けば円筒分水という、歴史の長い治水設備とのことで、探すといろいろな場所に点在しているとのこと。それらをめぐってたくさんの「円筒分水」を集めて記録しても面白そうですね。

## ★ 銀賞

「稲ワラロール作り」



撮影場所：旭市秋田

撮影者：多田 正吾

写真の題材としては珍しくはありませんが、無造作におかれているようにも見える「ロール」は一定のサイズで丸め終われば、また次とルーチンで動いていきます。空を大胆に取り入れたフレーミングで単調になりがちな情景に、上手くロールとその作業風景を見せることで、印象深い景色にまとめている作品になっています。

「朝日を受けて」



撮影場所：銚子市上野町

撮影者：名雪 照子

銚子の灯台キャベツ等ちょっとしたブランドも定着しているようですね。ご近所とのことで、日課で訪れる絶好の撮影スポット。自宅から通える範囲で自分なりの撮影場所と撮影スタイルを探す。写真趣味の基本を実践されているからこそ出会える、特別な風景が収められていますね。

## ★ 銅賞

### 「進む土地改良」



撮影場所：旭市

撮影者：嶋田 洋

的確なフレーミングですね。伝えるべきものをうまくまとめる構成力が写真に感じられます。無駄なものがないですね。ドキュメンタリーのタッチ。単写真のみならず、組み写真の一コマにもなる作品ですね。もう少し全体に広がるような画面で見せると写真の緊張感が和らいて、また雰囲気の違いが得られます。

### 「夕日に染まる栗山川」



撮影場所：多古町道の駅そば

撮影者：秋山 さおり

画面真ん中あたりに写るテントのようなものは多古町が管理する「レインボーステージ」のテントのようです。その特徴的なテントの尖がり屋根もきれいに川面に写りこみ、主役であろう夕日によるオレンジの水面のいい引き立て役になってくれています。雲の様子を多く取り入れたフレーミングもGoodです。

### 「いっちょあがり」



撮影場所：八千代市堀の内

撮影者：梅川 記生

ロールに白いカバーをかける専用の作業車があるのですね。ひとつずつとは言え、着実に作られ、淡々と畔に並べていく様子。何気ない農村風景なのですが、物事全てに理由がある。そんな証拠を裏付けるとてもいい観察眼が記録されています。

★ 佳作

「夏野菜のトンネル栽培」



撮影場所：千葉市緑区小山町

撮影者：佐藤 琢耶

少しずつ自分の畑が広くなり、ビニールトンネルの数が増えていく様子を記録していくのもうれしいですね。そんな作者の思いが伝わります。今後も幅広く営農されていくことと思いますが、季節に応じて記録的にご自身の畑を撮影し続けていただければと思います。

「初霜の朝」



撮影場所：酒々井町伊篠新田

撮影者：田村 雅彦

最近では柿の実を採る人も随分少なくなり、地方のあちらこちらで、写真のような光景を目にしますね。写真の色合いなのか、うっすら霜で白くなった切り株などから真冬の朝方の雰囲気を感じられます。そこに鮮やかなオレンジ色をした柿のコントラストが映える作品となりました。

「お腹いっぱい」



撮影場所：旭市

撮影者：熱田 安夫

旭市、東庄町周辺では、一、二月に白鳥飛来のピークを迎えるそうですね。田畑や水田で餌になるようなものを探したり、シベリアより温かい風土を探して越冬してくるのでしょう。かなりの数の白鳥が写り、二番穂などを食んでいる様子がよく伝わります。空を飛翔する10羽の集団も空にいいアクセントを加えていますね。

「九十九里平野と水平線」



撮影場所：長生き展望台

撮影者：佐藤 ありさ

空気が澄んだ空の様子、天気の良い日和に恵まれた撮影日和だったに違いありません。自分の好きな場所と好きな景色を記録する愉しさ。今後も続けてください。アドバイスとして、画面手前のうっそうと茂る草の分は大胆にカットして、畑から続く平野部と水平線をメインにフレーミングしてみるとよかったですよ。

★ 佳作

「田園のキャンプ場」



撮影場所：香取市仁良(橘ふれあい公園)

撮影者：宮野 昌起

キャンプ場を遠望できる小高い場所からの撮影でしょうか。小さく色とりどりのテントが何張りも見えますね。空の部分をうまくカットして、森と手前の池をバランスよく収めています。画面下側の畑の部分を少し減らしてあげると、タイトルにみえる「キャンプ場」に視線を誘導することができたでしょう。

「スマホもいいよね」



撮影場所：印西市吉高

撮影者：西脇 尚一郎

ほのぼのとした光景ですね。シャッターを切るタイミングは人それぞれなんだな—ということを感じさせてくれる一枚に仕上がりました。背景が明るいので、手前が暗くなるのは必然。たとえスマホでも露出補正は可能で。今度はスマホでもこんな写真が撮れるぞ—というものにもチャレンジしてみたいはいかがでしょうか。

「春に備えて」



撮影場所：夷隅郡大多喜町

撮影者：井上 すみ子

野焼きの姿も年々減ってきていると聞きます。作業する人が減ったこともあります。環境や、安全性の面から減少していったのも事実で、この先はめったに見られなくなる光景かもしれません。かつての日本を代表する農村の風景の一コマのいい記録ができています。

「漁場へ急ぐ」



撮影場所：印西市

撮影者：新田 幸雄

船の動きを強調する水面の模様、画面奥の直線に延びるガードレールなど、画面を構成する要素がバランスよく配置され、小舟の動きを引き立ててくれます。緑に染まる画面またインパクトがあり、写真的な魅力が存分に伝わる素敵な作品を撮影されています。作者のレベルを感じさせます。

★ 佳作

「赤いハウス」



撮影場所：いすみ市

撮影者：吉田 幸江

調べるといくつかの地域で赤いビニールハウスが存在しているようです。それにしても夜道で見つけると異様な光景ですね。何を栽培しているのかわかりませんが、それにしても珍しいフォトジェニックな被写体に出会えましたね。

「湖岸の彩り」



撮影場所：鋸南町佐久間ダム

撮影者：吉田 金造

満開の時期だったのか咲き誇る湖畔の桜が見事です。高台からのアプローチ全体の様子を的確に伝えています。一方で、狙いだったのか、橋を渡る赤い車の存在は賛否が分かれるところ。主役のさくらよりは印象の強い色なのでどうしても視線が向かってしまうことは避けられない点注意が必要です。